

平成 28 年度高知県公共事業再評価委員会

平成 29 年 2 月 23 日（木）10:00～11:00

高知共済会館 3 階大ホール「桜」

春遠生活貯水池建設事業 - 事業再評価 -

■委員長の選任について

委員会設置規定第 7 条により、那須 高知工科大学教授を委員長に選任

■主な意見等

委員： 西南豪雨での浸水戸数の合計が 53 戸となっている。一方費用便益分析の結果の浸水軽減戸数が 7 戸と示されているが、どのような計算で 7 戸となっているか。53 戸と 7 戸の数値が異なっている点について、確認させていただきたい。

河川課： 53 戸については西南豪雨時の実績の戸数で、7 戸については年平均の被害軽減戸数を示しています。例えば 50 戸浸水する計算であっても、発生確率が 30 年に 1 回であると 50 戸を 30 年で割って 1 年で何戸と算出しています。示している 7 戸は確率別に算出、合算した上で年平均した数字です。

委員： 地域全体でいえることであるが、人口減少がかなり進んでいる。今回の事業についても地元の状況や意向が評価の基準になってくると思う部分もあるので、地元の現状、意向といった状況について教えていただきたい。

河川課： 地元自治体からも、早急に事業を実施し、利水（水道）・治水等について効果を発揮してほしいという声が上がっています。

委員： 水道事業は既に始まっているのか。

河川課： 大月町の水道事業は、春遠ダム建設を前提に本年度平成 28 年度から事業を開始しています。

委員： 今後平成 32 年度完成に向け、計画では平成 30 年～32 年の間に集中して事業を進捗させていく必要がある。その予算確保等の事業を確実に平成 32 年度までに完成させる見通しという点、水道事業による費用や便益（水道更新によるコ

スト低下等)については、今回の分析には加味しているか、という2点を確認したい。

河川課： 予算につきましては、平成32年度完成を目指して引き続き確保に努めたいと考えています。

水道事業については、全体事業費66億円の2.4%、160百万ほど大月町より共同事業者として負担金をいただいています。

今回の費用便益においては、前回再評価時と同様で水道事業の方は便益および建設費・維持管理費を分析から除いて算定しております。

委員： 対象流域の生息動植物に関する調査は行われているか。

河川課： 河川整備計画作成時等で維持流量設定の際に調査をしております。また、ダム建設の場合は本体発注前に環境部会等で議論し環境改変等を考えていかなければならないこともあり、調査も行ってきています。今後発注に向けて環境面で国と協議等も行っていく予定です。

委員： 環境面や動植物への影響等も考慮し、利水の不特定用水18万立方メートルという容量が算出されていると考えてよいか。

河川課： はい。アユ等から河川の必要な水深・流速等を踏まえて、河川の維持流量が決定されています。農業用水であれば既得の部分で季節ごとに必要な分を計算し、最終的には必要な正常流量を流すように計画しています。

委員： 農業用水に関し、この流域の現在の営農状況と今後の将来的な農業の見通し、予測について教えてほしい。

河川課： 農業の状況は、春遠地区では稲作が主です。大月町全体では国営農地でたばこ等が主な産業でしたが、イモ等への転作が進んでいます。

水利用の状況はかなり大規模な農地で耕作していることから、必要だということで地域の方から声が上がっています。

委員： 結論から言いますと、継続して取り組むべきだと思う。始まって20数年、念願の事業ということで、平成32年度中にはぜひとも完成を目指してほしい。

水不足、そして河川の氾濫の防止と、こういった大きなテーマの基に今まで取

組んできたと思うが、その当時の気象状況と今の気象状況は、100mm/hを超す豪雨は珍しくなくなり、一方で干ばつが続き早明浦ダムも干からびるような状況も続いていることから、計画当初の状況からも、むしろダム建設の必要性は高まっていると考えられる。

次に工事の進捗状況について発表があったが、35%超えということを見ると、地域の方々のご理解ご協力はもとより、地権者の方もこのダムは必要だということによって用地交渉も順調に進んでいるということが裏付けられると思う。また事業効果についても先ほど説明もあったように、クリアしているということ、そして何よりも、その地元住民の方が非常に期待しておられるという声を聞いている。十数年前に本当に大洪水で大変になったということを訴えられる方もいたし、また水道については一部改良改善されているものの、抜本的な改善ではないということからダムができると安心できるね、という声も聞かさせてもらった。水道未普及地域があるということだが、その方々の声については聞けなかった。しかし、私自身水道のない生活をしていたので、その実態というのは想像がつく。

それらを踏まえて、この工事は安全で安心して、そして文化的な生活をするために非常に重要な工事であると思う。地域の方々も「和食ダムの次はここだ」という声も耳にしておりますし本当にそんな思いで二十何年間、じっと待っていると思う。

完成をじっと待つ春遠地区に早く春が来ることを願って私の意見とさせていただきます。

委員長： 今までは予算等の関係もあり準備工事段階だったと思われるが、治水やB/Cから加味していないものの、この地域の水道の安定の効果も大きく、農業ということも効果として大きく重要性があると思います。

ここで今日、大月町さんも来られていると思いますので大月町さんより地元の声をお話しいただければと思います。

大月町役場：

春遠ダムの現状についてお話をさせていただきます。

春遠ダムの利水面については、大月町内の水道は小河川、表流水や伏流水を水源とした小規模な簡易水道が多く、古くから渇水期には度々大規模で深刻な水不足に見舞われてきました。これまでも取水施設の増設や改良、施設の統合などの渇水対策を行ってきましたが、抜本的な渇水対策の切り札として春遠ダムの完成は町民総意の悲願であります。本町でもその完成を見据え、春遠ダムを水源とする町内の5地区の簡易水路の統合を本年度、平成28年度より進めているところです。

春遠ダムの完成により、新たに1日最大660m³の水道水を確保でき、かつ安定性が大きく向上し、以前のような渇水被害が軽減されるものと考えておりました。また、春遠ダムの完成により現在地区毎に点在している取水施設、浄水施設、配水池等の施設の統廃合が可能となって広域のかつ合理的な水道施設とすることができます。これにより今現在19カ所ある施設が7カ所へと大幅に減少し、ほぼ自然流下で水道水の供給が可能となることから、光熱水費や維持管理費等の給水コストの軽減が可能になると期待しており、水道事業者として早期の春遠ダムの完成を望んでいます。

次に治水面では、春遠地区は大月町内で有数の農業地域となっており、稲作や施設園芸、露地野菜の栽培などが盛んに行われている地域です。そんな地域で農家の方が一番心配しているのが農地の浸水被害で、平成13年9月の高知県西南部豪雨で貝ノ川川の氾濫により家屋や農地にも大きな被害が出ています。それ以降、近年も台風の接近等が多く、家屋の被害には至らないが農地の浸水被害は何年かに一度発生している状況で、農家の方からも一日も早いダムの完成を望む声が聞こえています。また、地元春遠地区の春遠ダム推進協議会は、ダムの建設工事着工から10年以上協議を続けており、この間平成22年度にはダム検証対象ダムになるなど、当初の完成予定より遅れているものの、役員の方々から一日も早くダムの完成を、と早期の完成を望む声が出ています。

以上のような状況ですので、よろしく申し上げます。

委員長： ありがとうございます。その他、意見等ございませんか。

今ご説明がありましたとおり、今までの再評価も継続と審議されてきております。事業執行上の課題にもあるとおり短期集中的に投資するという一方で、高知県の方の予算の確保ということが最も重要かと思いますが、一定目途も立っていると聞いております。今後の取組みとして引き続き工事、手続き等を進め、早期の完成を目指すということで説明もありまして、費用対効果も2.39と十分あるとのことですので、この事業によって浸水被害の軽減や利水安全度の確保が図られるなど事業継続の効果が高いため、対応案として事業継続Aということによりたいでしょうか。

委員： 異議なし

委員長： 委員の皆さん全員の一致で「継続A」で決定したいと思います。以上で審議は終了します。